日緑工誌，J. Jpn. Soc. Reveget. Tech., 44(3), 436,（2019）

特集「学会 30 周年記念シンポジウム及び見学会報告」

大テーマ「持続可能な都市創造に果たすみどりの役割」

テーマ 4：住民の健康と緑化

岩崎　寛*　　緑・健康研究部会長（千葉大学）

この 10 年間で厚生労働省の健康に対する取り組みは，「治療」から「予防」に重点が置かれるようになった。例えば，2008 年からメタボリック・シンドロームの予防・改善を目的とする新しい健診制度を導入する計画を打ち出し，健康保険組合にメタボ対策を義務付けた。また 2015 年にはストレスによるうつ病などの精神疾患や体調不良が増加していることから，オフィスにおけるストレスチェックの義務化を発表した。さらに同年，20 年後の健康先進国を目指した「保健医療 2035」を発表し，これまでの，「病院での治療」から「地域でのケア」へ方向転換するビジョンを打ち出した。このように，全ての方針に共通するキーワードが「予防医学」なのである。よって，今後は病院などの医療機関だけで無く，地域においても住民が主体となり住民自身の健康維持や病気予防を進めていかなければならない。

しかし，地域における具体的な健康維持，病気予防の手法は十分に議論されていない。例えば，オフィスにおけるストレスチェックにおいても，結果によって産業医を紹介する程度に留まっており，ストレス負荷を抑えることや，ストレッサーを取り除くといった「予防」に関する具体的な対策はほとんど見られない。

既往の研究により，緑地や植物によるストレス緩和効果が検証されていることから，今後，「地域でのケア」を検討するにあたり，身近な緑化空間が地域住民の健康に与える効果を把握し，上手く取り入れることが重要になると考えられる。

緑・健康研究部会では，これまでにも研究集会やワークショップを通して，緑化が人の健康に与える効果に関して検討を重ねてきた。今回の見学地である二子玉川ライズは，エリア内にオフィスがあり，地域住民の利用も多いことから，本テーマの検証に適した場所であった（図–1）。

見学会当日は，地域住民やオフィス勤務者のストレス緩和や健康維持に有用な緑化空間の使い方の一つである屋上菜園等を見学した（写真–1）。その後，東京都市大学夢キャンパスに戻り，ミニワークショップを実施して，見学地の健康要素について，KJ 法を用いて参加者と共に検討を行った（写真–2）。

図–1　見学地である二子玉川エリアの特徴

写真–1　屋上菜園の見学

写真–2　見学地の健康要素を KJ 法にて整理

＊連絡先著者（Corresponding author）：〒271–8510　松戸市松戸 648　　E-mail：iway@faculty.chiba-u.jp